

## ■ EM野菜の作り方7 ■

# ナス

科目：ナス科 原産地：インド

### 【特性】

#### \* 栽培適温・20℃～30℃

- ・原産地はインド東部地方。
- ・トマト、ピーマン、馬鈴薯なども同科の野菜です。
- ・奈良時代から栽培されていたという文献があります。
- ・ナスの成分にはナスリンという抗酸化物質が含まれています。
- ・栄養価は比較的低いものの、油と良く合う果菜（実もの野菜）で、炒めても揚げても美味しく、ヘタまで食べる元気野菜調理法など、多彩な料理法があります。また漬物でもいろいろな漬け方がある、古くから親しまれてきた野菜です。
- ・茄子紺と言われ親しまれた染色は、ナスの紫色（アントシアニン系の色素「ナスニン」による）のことです。
- ・種類も多く、丸ナス、長ナス、水ナス、米ナス、白ナス、緑ナス、小ナス・・・等々、地方で古くから栽培されている、「地ナス」と言われているものが数多くあります。

### 栽培カレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培 暦		■	■	■	■		■	■		■		

種まき ■ 定植 ■ 夏期剪定 ▶ 収穫 ■

### 栽培方法

#### 1. 畑の準備

定植の3か月以上前から、EM生ごみリサイクルボカシを使って土作りをしておきます。

ナスは膨軟で肥沃な土壌で良く育ちます。

## 2. 定植

ナス苗を作るのはとても手間がかかるので、苗を購入します。ゴールデンウィークの頃に苗が一斉に売り出されます。

※補足：ナスは発芽から育苗まで温度管理が難しく、設備や施設が必要です。また、育苗期間も 65 日～90 日と長く手間がかかるため、一般的には苗を購入します。

○苗を選ぶ基準

- ・ 茎が太い
- ・ 子葉がついている
- ・ 節間がつまっている
- ・ 葉の色が濃い
- ・ 第1番花の蕾がある（本葉 7～9 枚目につく）



<定植のポイント>

- ・ 苗の定植は本葉 7～9 枚のとき、第1番花が蕾花のときが最適です。
- ・ 植えてから地温、気温が低いとよく育ちません（最低地温 17℃で活着がすすみます）
- ・ 植えつけは浅植えとします。深植えは禁物です。
- ・ 植え穴、ポット苗に十分に水やりをします。植え穴の水がひけたら植えつけします。
- ・ 苗が活着するまでは土の表面が乾いたら水やりをします。
- ・ 定植した苗は仮支柱で止めて置きます。

※水は、EM活性液 1000 倍希釈液を使います。

<仮支柱>

- ① 支柱は、植えた苗に 45° の斜めにして、植えた苗の根を傷めない位置に差し込みます。
- ② 支柱と苗の茎の中間点が接点となるようにし、接点の場所をヒモで「8」の字に結びます。



<あんどん>

定植後「あんどん」掛けにすると、風除け、保温になります。

「あんどん」は肥料の空き袋の両端を切って筒状にして、棒 4 本を使って立てます。

※あんどんは病虫害の忌避効果もあります。

※通気が悪くなるので、暑くなったら外します。



## 3. 中間管理

<整枝・仕立て>

主枝と側枝のV字型 2 本仕立てにする方法と、すぐ下の脇芽 2 本を伸ばして 3 本仕立ての方法もあります。3 本仕立ては株間を少し広く取ります。

- ① 第1番花のすぐ下の脇芽を伸ばし、側枝にします。
- ② 本支柱は 2m～1.5m ものを 2 本交差して立てます。3 本仕立ての場合は、主枝、側枝にそって 3 本の本支柱を立てます。
- ③ 他の側枝は芽かきをして整理します。



※支柱は使わずに、紐を使って吊るすなどいろいろな方法がありますので臨機応変に主枝、側枝を固定し、果実が大きいたくさん実っても支えられる方法を選びます。

※枝が水平より下がると生育が止まり、実がなくなってしまう。

＜管理のポイント＞

- ・元肥にはEMボカシを使い、膨軟な土壌で水はけの良いところで栽培します。
- ・水と肥料は切らさないようにします。肥料切れ、水不足の状態では、石ナスと言われる生理障害が発生します。実が硬く、食用に向きません。
- ・追肥は花や葉色（特に先端の葉色の濃淡）の状態を見て1～2週置きに、根



の周りに広く株元からだんだん離して、EMボカシを施用します。1回分の量を少なく、回数を増やすことがより効果が上がる方法です。EMボカシを溶かした液肥は速効型です。

- ・ナスの花で栄養診断ができます。長花柱花の場合は健全で豊産型です。中花柱花・短花柱花は栄養不足です。（ナス科野菜の特徴です）



#### 4. 収穫

・開花後、30日で収穫できます。第1果の収穫は小さいうちに収穫します。株を生長させ、その後の果実の生長が順調に促進されます。その後は、次々生長するので大きくし過ぎないように適期に収穫します。

- ・気温が上がるにしたがって生長が早くなります。

※いいナスの見分け方

色が濃く、艶があり、実を持ったとき皮が手に吸着するような状態が良好な生育で、軟らかくておいしいナスです。



＜夏期（更新）剪定と秋ナスの収穫について＞

真夏は生り疲れなど樹勢が弱り、花芽も少なくなって、品質の良いナスの収穫が望めなくなります。ここは収穫を一休みして秋に備えます。

- ① 7/下旬～8/月上旬に枝を切り戻し新しい枝を出させる（更新剪定）と美味しい秋ナスの収穫ができます。生育状況を見て、枝の1/2～1/3を切り詰めます。葉が1枚でも残っていると次の芽が出てきます。
- ② 剪定後は、水やり（畝間灌水）とEM3点セットを施用し生長促進を助けます。

※追肥と水やりは充分に、収穫も大きくし過ぎないように注意します。

※根元から30cm離し、2方向だけシャベルを挿し込んで根を切って新しい根を出させる方法もあります。

#### 参考：ナスの連作について

ナスは連作（毎年同じ場所で栽培）ができないことが常識とされています。

連作障害の原因と考えられるのは、①土壌の栄養バランスが崩れること、②病害虫の病巣ができること、③自分の根で自分を壊す自家中毒が起きること などです。

しかし、EM栽培は連作障害と考えられる原因をクリアするばかりでなく、連作障害物質を分解して生長促進物質に変えることにより、食味を増し、収量を上げていきます。

EM栽培は土作りが基本になります。土壌中のEMの密度が上がれば連作して何ら問題がありません。

ん。土作りができるまでは輪作（違う品種、ナス科以外を栽培）などの栽培方法が必要です。土作りができたかどうか、簡単に見分ける方法があります。そこで収穫されたナスが収穫した後、いつまでも腐らないで枯れる状態ならば土作りはできたと判断していいでしょう。